

白布ヶ丘だより

3月

…学校と家庭・地域の架け橋…

発行 栃木県立真岡高等学校

〒321-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24番地1

TEL 0285-82-3413 FAX 0285-82-2913

ご卒業おめでとうございます

3月1日(金)、平成30年度卒業式が挙行され、全日制198名、定時制9名が卒業し、本校の卒業生総数は25,815名となります。

卒業式に先立ち、2月28日(木)に、学校長賞、学業賞、特別活動賞、精励賞(皆勤・精勤)、善行賞等の表彰式が行われました。

また、文武両道奨励賞(P.T.A会長賞)の受賞者17名が富山英幸P.T.A会長より表彰されました。P.T.A会長から「明日の卒業式を新たな出発点として、最大の敵である己と向き合い、それぞれの目標を達成してほしい」とのお言葉を頂きました。



＜表彰式で富山英幸P.T.A会長より授与＞

表彰式の後、創立120周年記念讃歌作詞表彰(優秀賞 泉幹大(2-5)、大塚秀太郎(2-4))と、それに引き続いての同窓会入会式が行われました。河原慎吾君による入会の誓いを受け、佐藤務同窓会会長より同窓会の活動の紹介や高校時代の思い出、さらには「人工芝等の恵まれた環境で学ぶことができたのは、多くの方々の御支援による。感謝の気持ちをもって生活すれば、皆さんはさらに成長できる。」といった歓迎の言葉を頂きました。



＜同窓会入会式 河原君による入会の誓い＞

3学年担任より卒業生へ

第3学年主任 3年2組 担任 船越 高典

3年生の皆さん。卒業おめでとう。毎年こうして皆さんへのメッセージを書く機会をいただくのですが、性格上改まった文章を書くのは苦手です。ですから、毎年文学の話と絡めてみなさんに思いを伝えてきました。

1年生の時は、詩人の黒田三郎の「紙風船」という作品を紹介しました。中学生だった私が転校する際、担任の先生がこの詩を色紙に書いて贈ってくださいました。当時の私にはこの詩の意味がよく分からなかったのですが、様々な経験を積んで大人になった今の私には、詩の意味だけでなく、それを贈ってくださった先生の真意も理解できるようになりました。まだ若い皆さんにとって、親や教師の口から出てくる言葉は説教臭くてうるさいものかも知れませんが、時には人生経験豊富な大人の話にも謙虚に耳を傾け、そこに含まれる真理に気づいてほしい。そんな話をしました。

2年生の時には、中国の偉大な思想家である孟子と、私の大好きな作家である村上春樹を取り上げて、本校の校訓である「至誠」について考えてみました。「至誠」が示すように「人に対して誠実である」ためには、優しさだけでなく、知力・体力そして精神力の強さも必要です。そして、「もし、硬くて高い壁と、そこに叩きつけられている卵があったなら、私は常に卵の側に立つ。」と言った村上春樹のように、弱者に寄り添ってこの世の中を変えていこうとすることこそ、まさに「至誠」であり、真高生にはそんな「至誠」の精神の真の体現者になってほしい。そんなことを書きました。

3年生の今年は、太宰治に登場してもらいましょう。太宰の代表作の一つ『人間失格』(1948年)の中に、主人公とその友人が、対義語(アントニム)の当てっこをするという言葉遊びの場面があります。主人公が「花のアントは？」と問うと、友人が、「月」だの「風」だの「女」だのと理屈をつけて答えていきます。この話に触発されて、私も「教師のアントは？」と自問してみました。すぐに「生徒」という答えが出ます。生徒がいなければ、われわれ教師の仕事は成り立ちませんし、なによりも真高のようにすばらしい生徒たちがいるおかげで、「オレは教師だ」って威張ってられるわけですから。でも、すぐに思い直しました。生徒といっしょに笑ったり、いっしょに悩んだりしながら、この真高での生活を心から楽しんでいる自分にとって、真高の教師と生徒はけっしてアントではなくて、むしろシノニム(同義語)なのではないかと。誠実で心優しい皆さんとともに過ごしたこの3年間は、私の教員人生の中でもとても思い出深いものになりました。本音を言うと、このまま皆さんの学年主任を続けたい気持ちです。でも、それはできません。皆さんは、それぞれの夢に向かってここから巣立っていくわけですから。ともに真高を愛する仲間として、私はこれからも皆さんにエールを送り続けたいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様には、この3年間物心両面に渡ってご支援ご協力をいただき本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。真高を愛してくださる「保護者」も、「生徒」「教師」のシノニムですね。

3年1組 担任 五十畑 将義

卒業生のみなさん卒業おめでとうございます。

真岡高校での3年間はどうかだったでしょうか。大きな成長を実感している人、まだまだやりたいことがあったと物足りなさを感じている人など様々な思いがあるかと思います。今、どんなことを感じているかは人それぞれですが、全員がこの三年間でいろいろなことを学んだはずで、勉強はもちろん、人間関係やいろいろな感情、よかったことも悪かったこともそのひとつひとつが真岡高校で得られた貴重な財産です。成功だけでなく、失敗から学ぶこともたくさんあります。これからその財産をどう使っていくかによって、この三年間が有益なものであったか無益なものであったかが決まるのではないのでしょうか。ぜひこの真岡高校で学んだこと、観たこと、聴いたこと、感じたことなど、そのすべてを振り返りこれからの人生にいかしてください。

真岡高校を卒業し、それぞれの道へと踏み出すみなさんの将来は数えきれない可能性にあふれています。

「求めよ！さらば与えられん！」自分のなりたい自分になるために貪欲に生きてください。

「たったひとりしかない自分を、たった一度しかない人生を本当に生かさなかつたら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか。」(山本有三『路傍の石』より)

3年3組 担任 小平 裕宣

卒業おめでとう！3年間を振り返ると、本当にあっという間の、そして何よりも楽しい3年間であったと今、感じている。楽しい3年間を過ごすことが出来たのも、君たちのおかげである。ありがとう。卒業を前にして、君達には夢があるだろうか。世の中には夢を叶えることができる人間とできない人間がいる。その違いは何か。私は夢が大きければ大きいほど、乗り越えなければならぬ壁も大きく、またその数も多いのだと思う。そして夢を叶えることができた人間は、最後の最後まで諦めることなく、その壁を乗り越え続けた人間なのだと思う。だからこそ夢を叶えることができた人間は「夢は必ず叶う」と言う。これからの人生、君たちは壁にぶつかったと感じることがあると思う。でもそれは決して越えられない壁ではない。人は超えることが出来ない壁にはぶつからない。むしろ超えたいと感じるからこそ、壁にぶつかるのだと私は思う。そして壁を感じ、それを乗り越えようと努力するからこそ、人として成長できるのだと考える。迷いなくして成長なし。君達の今後の更なる活躍を期待しています。3年間本当にありがとう！

3年4組 担任 熊倉 聡

迷いながら/ぶつかりながら/揺れながら/過ごした日々をいとしく思う

—加藤千恵 『写真短歌部 放課後』

数年前友人宅に遊びに行ったとき、何となしに手に取った歌集に載っていたこの一首に、私は目を奪われた。なぜか激しく心が揺れた。何もわからず、必死で、それでいて自分が何者であるかもまだ明確に定まらない不確かさを抱えながら、青春を駆け抜けた一人の人間の「若さ」をその時感じたのだと思う。

青春は、誰の人生においても「不確かさの時代」ではないだろうか。みんなの高校時代はどうかだろう。自分が将来どうなるのか想像もつかない中、「こうありたい」という信念を持って努力を続けてきたと思う。しかし時には、障害や、仲間とぶつかる瞬間があり、そして自分の信念に揺らぎが生じたことも、あったのではないだろうか。それでも、そんな「不確かさ」を胸に抱えながら、無我夢中で駆け抜けたこの三年間は、君たちにとってかけがえのない時間である。

この三年間は、私にとっても「不確かさ」の時代であった。初めて担任を務めることになった時は、うれしかった。しかし同時に、担任としてどのように人の人生に係わるべきか、迷いや重圧もあった。うまくいかないことや、自分の力が足りないと感じる瞬間にも多々ぶつかり、「私」という存在に揺らぎを感じた。それでも、みんなとの時間のおかげで今日を迎えることができた。振り返ると、一つ一つの出来事が、大切に、愛しいものに思える。私の「教師」としての青春時代は、この三年間だったと思う。

最後になりましたが、改めてご卒業おめでとうございます。真高で過ごした時間が、私にとってもそうであるように、皆さんにとってもいつまでも大切な時間であり続けますように。卒業後の活躍を期待しています。

3年5組 担任 大關 敬智

卒業おめでとう。

入学式でのあどけない姿が懐かしく思えつつ、卒業を目前にし、たくましく成長した姿に力強さを感じている所です。今、諸君は人生の新たなスタート地点に立ち、来る新生活に期待を膨らませている所だと思います。そんな今だからこそ、伝えておきたいことがあります。

これまでの人生を振り返った経験はあるでしょうか。この機会に、是非実行して欲しいと思います。両親を始め、先生から友人まで、様々な人が、諸君の成長に関わってきたはずで、時には叱咤激励を受け、口うるさく感じることもあったでしょうが、精神的な支えになっていたことも確かでしょう。高校生活を締めくくる今こそ、18年分の感謝の気持ちを、しっかり言葉で伝えて欲しいのです。そして、今度は、その受けた恩を、これから出会う人達に分け与えて欲しいのです。大学に入れば、新しい仲間が待っています。職を得れば、同僚と共に働き、やがては後輩や部下を持つことになるでしょう。良き伴侶を見つけ、家族が増える者も多いはずで、未来の家族に、友人に、同僚に、今まで受けてきた全てを還元して欲しいのです。

最後に、これから、成人し、独り立ちするにつれて、苦言も助言も与えてくれる人は減っていきます。それは、自身で決める権利を手にする一方で、それに対する責務を持つことを意味しているのです。立派な成人になることを期待しています。

3月の行事予定

【3月】

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 2日(土) | サタデーセミナー(1・2年)
土曜開放 |
| 5日(火) | 午前中授業 午後一般選抜準備 |
| 6日(水) | 一般選抜
生徒登校禁止(部活動なし)
ライトダウンデー |
| 7日(木) | 生徒休業 |
| 8日(金) | 生徒休業 |
| 9日(土) | スタディーサポート(1年)
土曜開放 |
| 11日(月) | 生徒登校禁止(部活動なし) |
| 12日(火) | 合格者発表 |
| 13日(水) | 短縮日課(45分授業) |
| 15日(金) | 合格体験発表会 |
| 16日(土) | 校舎立入禁止 |
| 17日(日) | 校舎立入禁止 |
| 18日(月) | 生徒登校禁止(部活動なし)
(定時制入試) |
| 22日(金) | 修業式・大掃除 |
| 25日(月) | 新入生オリエンテーション |